

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH319
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 3
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	小黑 正幸, 戸部 悠紀, 柳井 徹哉
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>医師や関連医療職種との連携を円滑に実践するため、医療人として臨床現場で実践可能な知識の獲得を目指す。</p> <p>上肢(前腕から手指部)の骨折損傷について診断法、整復法、固定法を学び実技実習を繰り返し習熟する。柔道整復師が必要とする観察力と判断力を養い、初検時より回復に至るまでの過程において適宜、正しい評価を行えるようにする。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>柔道整復師を目指すうえで必要な上肢(前腕から手指部)の骨折損傷について診断法、整復法、固定法を、接骨院での臨床経験のある教員がその経験を活かして教授する。</p> <p>担当教員 小黑 正幸 元大学附属接骨院院長 柔道整復師 戸部 悠紀 元大学附属接骨院院長 柔道整復師 柳井 徹哉 現接骨院院長 柔道整復師</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の診断法、整復法、固定法の目的を理解し、実践できる ・状況判断ができ、問題点または課題を発見できる ・カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の技術を学び、実践力を養う」ために、外傷施術を科学する探究心を涵養し、地域医療に貢献できるよう、教授分野の基本的な技術と実践力を知識を身につける。
計画・内容	<p>1-2) 講義概説 前腕骨近位端部骨折 (橈骨近位端部骨折)</p> <p>3-4) 前腕骨近位端部骨折 (肘頭骨折)</p> <p>5-6) 前腕骨骨幹部骨折 (モンテギア骨折)</p> <p>7-8) 前腕骨骨幹部骨折 (前腕両骨骨折)</p> <p>9-10) 前腕骨遠位端部骨折 (コーレス骨折概説)</p> <p>11-12) 前腕骨遠位端部骨折 (コーレス骨折牽引直圧法)</p> <p>13-14) 前腕骨遠位端部骨折 (コーレス骨折屈曲整復法)</p> <p>15-16) 前腕骨遠位端部骨折 (コーレス骨折固定法)</p> <p>17-18) 手指部骨折 (舟状骨骨折)</p> <p>19-20) 手指部骨折 (中手骨骨折)</p> <p>21-22) 手指部骨折 (指骨骨折)</p>

計画・内容	<p>23-24) 実技試験</p> <p>25-26) 実技試験</p> <p>27-28) 実技試験</p> <p>29-30) まとめ</p> <p>全回数を以下の教員が担当する。</p> <p>小黒 正幸 元大学附属接骨院院長 柔道整復師 戸部 悠紀 元大学附属接骨院院長 柔道整復師 柳井 徹哉 現接骨院院長 柔道整復師</p> <p>感染症対策として、感染症の拡大状況により、 対面授業であっても、実技室のキャパシティにより、 全体を2～3班に分けて実技、課題、座学を週ごとに交代して実施の場合がある。</p>
授業の進め方	<p>説明と実技実習を交えて講義を行う。 病態を理解し、正しい診断法、整復法及び固定法を習得出来るように反復練習する。 教員が各グループを見て回り、適宜指導を行う。 固定法の復習を適宜行う。</p>
能動的な学びの実施	<p>実技実習では2人もしくは3人一組となりお互いの身体に整復や固定を行うことで技術の修得を図る。 また、実習内容によってはグループに分かれグループ毎に評価表を基に評価を行い、施術者役、患者役を経験することを通して問題点や課題を理解する。</p>
授業時間外の学修	<p>授業時間外学習（合計60時間程度） 予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して基本的な理解を得ておくこと 復習：実習で得た知識をノートなどにまとめる。また、実習で得た技術は反復練習を行い技術向上を図る。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」(南江堂)</p>
成績評価方法と基準	<p>平常点（実習態度、出席数、筆記試験など）20%、実技試験80%、にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 実技科目のため、原則として3回（6コマ）以上欠席（考慮できる理由なく）した学生は単位を認めない。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>学生からの実習進度確認の都度、実技指導、コメントを行う。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>進行の度合いにより内容が変更されることもある。その際は事前連絡する。 授業内だけの技術向上は難しいため、個人またはグループでの練習を重ねて技術向上を目指す必要がある。 医療従事者にふさわしい身なりで受講すること。 不適切と認めた場合には、授業の進行を妨げるものとして、参加を認めないことがある。</p> <p>また、必修科目であるため、必ず第1回目の授業から履修登録の上、出席のこと。</p> <p>感染症対策として、感染症の拡大状況により対面授業であっても、 実技室のキャパシティにより、</p>

留意事項	全体を2～3班に分けて実技、課題、座学を週ごとに交代し、密をさけての実施となる場合がある。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 授業動画配信によるオンライン授業 課題学習 のいずれか、または複数を組み合わせて実施する。 授業中課題50%と定期試験の成績50%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験で評価する。